

校内研究 小嚙

総合的な学習や探究型学習についての情報です。
校内研究の学びへの参考にしてください。



R7.06.27 3号

アイゼンハワーマトリックス

アイゼンハワーマトリックスという考え方を紹介しましょう。これは、有名なアメリカ元大統領(ノルマンディー上陸作戦を指揮した最高司令官)アイゼンハワーが提唱したと言われる時間管理のフレームワークで、タスク(課題)を「緊急度」と「重要度」の2つの視点(軸)から整理するものです。

全世界で4000万部、国内で240万部を売り上げ(2021年時点)、世界一売れたビジネス書として有名なスティーブ・R・コヴィー博士著の『7つの習慣』にも時間管理マトリックスとして紹介されています。

研修(校内研修、区中研、自主研修など)の重要性を再認識するきっかけにして欲しくて、取り上げました。このフレームを普段の校務に生かし、校務改善を図る一つの考え方として使うのも良いかと思います。

	緊急	緊急ではない
重要	第1領域 問題・課題の領域 ● 締め切りのある仕事、会議 ● クレーム処理 ● 壊れた機械の修理 ● 危機や災害 ● 差し迫った問題 ● 病気や事故	第2領域 質の高い領域 ● 豊かな人間関係作り ● 将来に向けた準備や計画 ● 予防やリスク対策 ● 価値観の明確化 ● 勉強や自己啓発 ● 真の意味でのレクリエーション
重要ではない	第3領域 見せかけの領域 ● さまざまな妨害・邪魔 ● 重要でない電話 ● 重要でない会議 ● 重要でない差し迫った問題 ● 突然の来訪 ● 無意味な接待や付き合い	第4領域 無駄な領域 ● 噂話などの暇つぶし ● 見せかけの仕事 ● とりとめのないだらだら電話 ● 目的のないテレビ視聴 ● 何もしない移動時間 ● 何もしない待ち時間

このマトリックス(図、行列)では、タスクを大きく4つのカテゴリーに分けます。

1 緊急かつ重要 (対応は、今すぐやる。)

例:明日の授業準備、急な保護者対応、締め切りの迫った書類作成。

この領域に入るタスクは、優先してすぐに取り組むべきタスクです。

2 緊急ではないが重要 (対応は、計画してやる。)

例:新しい指導法の研究、生徒の個性に合わせた支援方法の検討、外部研修への参加、同僚との授業研究

この領域に入るタスクが、今日のコツです。緊急ではないため、つい後回しにしてしまいがちです。しかし、ご自身の専門性を高め、より質の高い教育を実践するために、取り組まなくてはならない大事なタスクです。将来に向かって道具を準備したり、刃物の刃を研い
だりするようものです。

- 3 緊急だが重要ではない（対応は、できるだけやらない、他の人に任せる。）

例：すぐに返信しなくてもよいメールの確認、次に時間のプリントの印刷、本質的ではない打ち合わせへの参加
この領域のタスクは、他の人に任せたり、効率化できないか考えたりするタスクです。

- 4 緊急でも重要でもない（対応は、やらない。）

例：単なる雑談、ネットの記事あさりなど。

この領域のタスクは、時間つぶしには最適です。しかし、意識的に避ける、気づくことで、本当に大切な時間を生み出せます。



ところで、これを読む前にやっていたタスクは、または読んだ後にやろうとしているタスクは、どの領域のタスクでしょうか？ こう問うと、これを読むこと自体が「4」だ、とおっしゃる先生もいます。

なぜ、この「緊急ではないが重要」な学びが先生方にとって大切なのでしょうか。「質の高い領域」とあるように、質を高めるために取り組む課題でもあるからです。

目の前の「忙しさ」に追われてしまい、「今のやり方で十分できている。」「新しいやり方や考え方なんて、学ぶ時間はない。」と感じて、取り組まずにいるのか知れません。分かってはいるけど・・・、かも知れません。この「質の高い領域」に目を向け、力をつけることで、先生が、将来、もっと楽にもっと楽しく、そしてもっと自信を持って教壇に立ち指導できるようになるはずで
す。そして、この姿がプロの教師です。



- (1) 新しい学びは、日々の指導に「ゆとり」と「広がり」をもたらします。

新しい指導法や知識は、子どもたちの理解を深め、先生方の指導の引き出しを増やします。結果として、子どもたちの反応が変わり、それが先生方のやりがいにも繋がると
思います。

- (2) 研修は、先生方の「引き出し」を増やし、自信を与えます。

目の前の子
どもたちが抱える課題は多様化しています。研修で得た新しい視点や知識は、目の前の子
どもたち一人ひとりに寄り添い、より適切なサポートをするための強力な武器になります。

- (3) 同僚との学び合いは、新たな発見と活力を生み出します。

他の先生方の実践から学び、自分の指導を客観的に見つめ直す機
会は、新たな気づきや発想を与えます。それらは、いまある技術・能力の固定化している部分に、新たな風を吹き込みます。

- (4) 変化の速い時代に、先生方自身の「アップデート」は不可欠です。

社会が大きく変化する中で、子どもたちを取り巻く環境も常に変わっています。先生方が学び続けることは、子どもたちに最新の、そしてより質の高い教育を提供するために欠かせません。



「緊急」でないから、気にはなるけど脇においている状態でしょう。だからこそ、「緊急ではないが重要」の категорияにある研修(学び)にあえて立ち向かうことは、先生自身の教育者としての喜びを深めることにつながります。そして、これは、決して「その職責を遂行するために、絶えず研究と修養に務めなければならない(教育公務員特例法第 21 条)」があるから行うの「べき論」ではなく、より生徒の力を伸ばすことができる教員になるために、充実した指導を行える技量を持つために、教員としての充実感も手に入れるために、プロとして行うものだと、私は信じています。